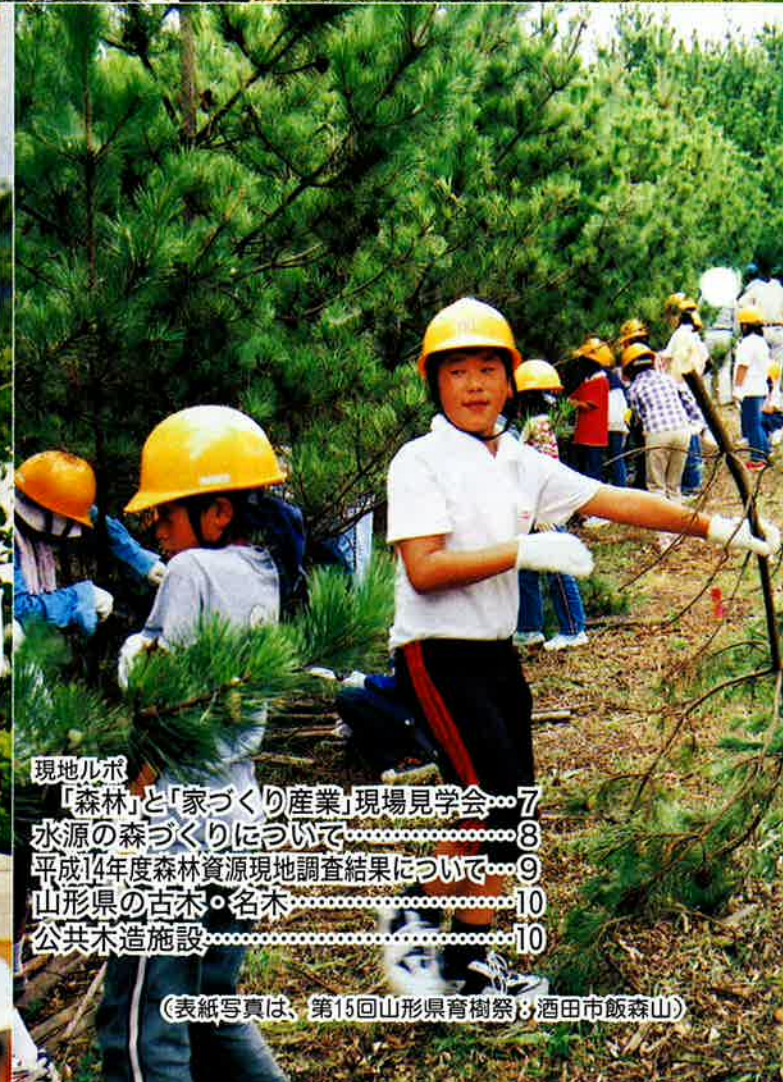
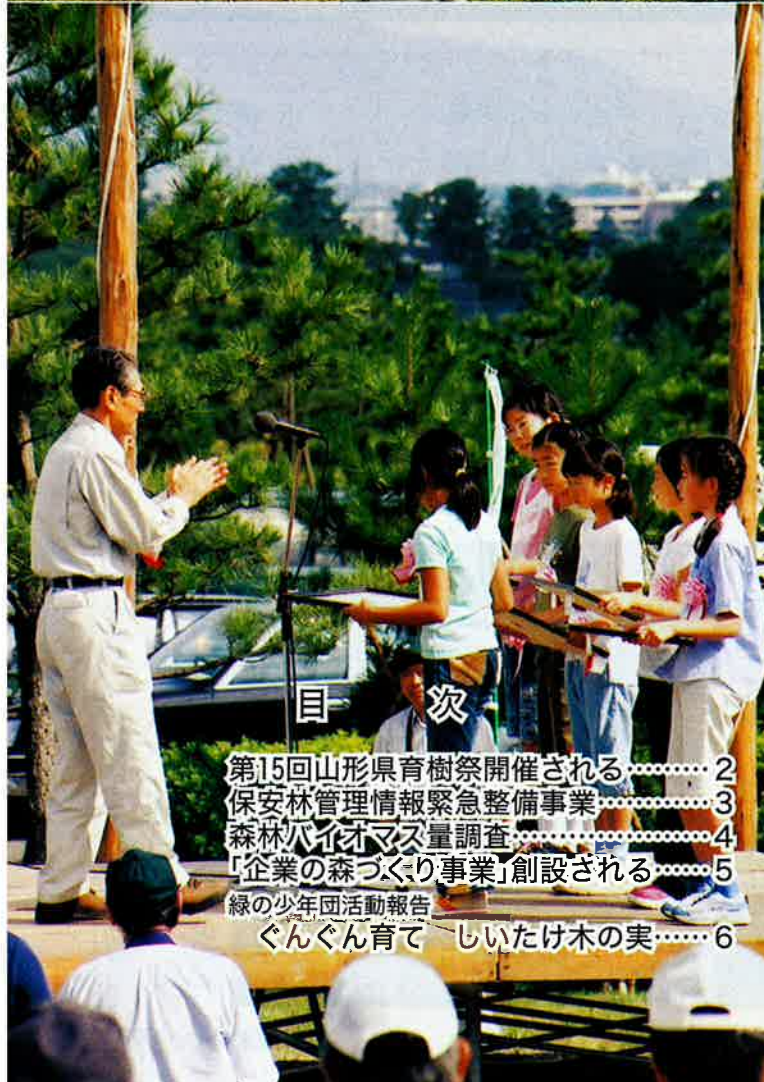


森林やまがた

No.79

2003 10月

第15回 山形県育樹祭



目次

- 第15回山形県育樹祭開催される……………2
- 保安林管理情報緊急整備事業……………3
- 森林バイオマス量調査……………4
- 「企業の森づくり事業」創設される……………5
- 緑の少年団活動報告
ぐんぐん育て しいたけ木の実……………6

現地ルポ

- 「森林」と「家づくり産業」現場見学会……………7
- 水源の森づくりについて……………8
- 平成14年度森林資源現地調査結果について……………9
- 山形県の古木・名木……………10
- 公共木造施設……………10

(表紙写真は、第15回山形県育樹祭、酒田市飯森山)

「広げよう 緑の未来と みんなの笑顔」

—第15回山形県育樹祭 開催される—

九月十三日(土) 酒田市飯森山西緑地において、第十五回山形県育樹祭が開催されました。
当日は、台風が近づいている中、天候が心配されましたが、参加者の熱気に台風も近づけず、まずまずの天気での開催となりました。
「酒田北前太鼓」のオープニングアトラクションに引き続き、「緑の種年団活動発表大会」が開催され、県内三ブロックを代表し、吉野緑の少年団(南陽市)・西川町緑の少年団・平田町緑の少年団が日頃の活動等の発表を行い、厳正な審査の結果、平

広げよう 緑の： 第15回 山形

主催 山形県、酒田市、(財)山形



平田町緑の少年団 活動発表

田町緑の少年団が最優秀賞を獲りました。

式典では、主催者代表挨拶、来賓祝辞に続き、各種表彰がおこなわれました。

○山形県森林・林業功労賞
佐藤 護 郎 (酒田市)

○山形県民有林間伐コンクール
保育間伐部門

最優秀 日向 正美 (酒田市)
収入間伐部門

最優秀 本間 正衛 (温海町)
育樹祭テーマ

最優秀 天野 千尋
他優秀賞五名

○造林コンクール
五十嵐 寛 (鶴岡市)
緑化功労者
桜井 輝夫 (温海町)
小田 重四郎 (酒田市)



育樹祭テーマの表彰

知事から地元酒田緑の少年団へ記念品として、木工クラフト製作用具の贈呈があり、その後、「クロマツ林を未来につなぐメッセージ」として酒田中央校三年佐藤かおりさんからメッセージが発信されました。
最後に、育樹作業として、平成四年に植栽したクロマツ林の枝打ち作業を参加者全員で行い、海岸砂防林

の重要性と守り育てることの大切さを身をもって体験しました。
〔県森林課〕



緑の少年団も頑張っています



副知事による枝打ちの育樹作業

注目されはじめた森林吸収源としての保安林の役割

一 事業の目的

地球温暖化防止に関する京都議定書の採択を受け、わが国は「二〇〇八年から二〇一二年にかけて、一九九〇年比六％の地球温暖化ガス削減」の目標を立て、その内三・九％分（一、三〇〇万炭素トン）については、森林による吸収で賄うことになっていきます。

この実現のために、国内森林の七割（一、七五〇万杉）について、吸収量算入の要件である「適切な森林経営」を実施し、持続可能な形で森林蓄積の増加を図る必要があります。特に保安林は、公益に資する観点より法律を背景に組織的な整備が可能なることから、目標達成を図る上で大きく期待されています。

事業は、森林吸収量の報告・検証体制を確立するため、その主要な対象となる保安林について、適切な管理・保全が行われているか等の実態調査を行うものであります。

また、この事業は、森林吸収量報告検証体制緊急整備三事業の一つと

して、平成十五年度～平成十六年度にかけて実施するものであります。

二 事業の概要

調査の項目は、保安林が適切に保護・保全されていることを検証可能な方法で把握するために、次の四項目となっています。

(一) 保安林管理情報整備状況

立木の伐採の許可状況・土地の形質の変更行為等の許可状況・立木伐採届等の制限及び損失の補償が適切に行われている事の立証。

無許可伐採・無許可の土地の形質の変更行為・植栽義務違反に対する監督処分等の立証。標識の設置・保安林台帳の調整・保管・指導及び援助の状況等の適正な管理及び治山事業等の記録の立証。

(二) 保安林管理体制整備状況

保安林を管理するための条例等の制定の経緯、組織・予算の推移等。

(三) 保安林管理情報把握状況

保安林の管理に関する情報の把握体制等。

(四) 森林吸収源としての保安林管理情報整備状況

保安林台帳の面積と実測面積の誤差の割合、林種別面積。

三 調査の対象

調査対象は、重要流域に存在する一～三号民有保安林の一、九〇〇杉であり、実態を正確に把握するため以下五区分の割合が著しく隔たりがないよう選ぶことになっています。

(一) 保安林の種類別の面積割合 (表一参照)

(二) 流域別の指定面積割合 (表二参照)

(三) 昭和二十八年年度末以前及び保安林整備計画期別毎（一〇年毎五期）の面積割合 (表三参照)

(四) 育成林・天然林別の面積割合

(五) 国土調査実施済・未実施別の面積割合

四 おわりに

平成十五年度は、阿武隈川、最上川、荒川の三流域で九九三杉を調査することとしています。

県が管理している民有保安林台帳では、調査項目の(一)については、ほとんどが網羅されているものの、一部整備を要するものがあります。本事業を契機として保安林管理の一層の適正化を図り、温暖化防止の役割

を果たすことが望まれます。

また、「農林水産省の所管事項に関する地方公共団体の行政手続等の電子化推進アクション・プラン」により、保安林の指定・伐採許可等申請手続き及び許認可については、オンライン化の実施方策が示されているところであり、安価で迅速かつ正確な行政サービスの実施のためにも、保安林の適切な管理と正確な情報提供を行う必要があります。「森林課」

表1 指定目的別保安林面積割合 (単位：%)

水かん	土流	土崩	計
43	56	1	100

表2 流域別保安林面積割合 (単位：%)

阿武隈川	最上川	荒川	計
1	95	4	100

表3 指定時期別保安林面積割合 (単位：%)

昭和28年度以前	第1期整備計画	第2期整備計画	第3期整備計画	第4期整備計画	第5期整備計画	計
55	8	10	9	10	9	100

温室効果ガス吸収源として期待される森林

山形県森林研究研修センターでは、森林吸収源計測・活用体制整備強化事業の一環として、森林バイオマス量現地調査を行っています。事業の背景と調査の概要を紹介します。

温室効果ガスの削減

今、地球温暖化問題は、大変深刻になっていきます。一九九七年十二月に「京都議定書」が採択され、先進国毎に基準年（一九九〇年）の温室効果ガス排出量に対し、二〇〇八年から二〇一二年までの第一約束期間の平均排出量の削減目標（排出枠）が定められました。

我が国での削減目標は、六パーセントとすることです。このうち、三・九パーセント程度を森林の整備を積極的に行って、温室効果ガスを吸収し、排出削減に取り組むことになっています。

森林の温暖化防止のしくみ

森林は、光合成（木材生産）による二酸化炭素吸収と、呼吸による二酸化炭素排出を同時に行っています。林齢の若い間は生産速度が呼吸速

度に比べて大きく炭素を多く吸収していますが、成熟すると生産速度が横ばいとなって二酸化炭素吸収能力が低下します。したがって、適切な年数で伐採し、再造林することが炭素吸収源としての森林の働きを高く維持していくことにつながります。

森林吸収源十カ年対策

政府は、二〇〇二年三月に、五本の柱から成る「地球温暖化防止森林吸収源十カ年対策」を策定しました。

- ① 健全な森林の整備
 - ② 保安林等の適切な管理・保全
 - ③ 国民参加の森づくり
 - ④ 木材、木質バイオマスの利用促進
 - ⑤ 吸収量の報告・検証体制の強化
- この⑤は次のような内容です。
- ア 吸収量の算定報告に関するIPCC（気候変動に関する政府間パネル）を踏まえ、我が国の森林について二酸化炭素吸収量の算定方法の開発を進める。
 - イ 森林の位置を地図情報として利用できる森林GISの導入を図る。

ウ 吸収量の報告に必要な森林資源情報のデータベース化を図る。

森林バイオマス量調査

この調査は、アに関するもので、森林の二酸化炭素吸収明細量の基礎データを得るため、主要樹種別にバイオマス（生物資源）量を調べるものです。昨年度は針葉樹を対象に山形市、西川町、真室川町の三カ所で調査しました。今年度の調査は寒河江市、東根市、小国町の三カ所で広葉樹を対象に行っています。

先ず、二十メートル方形の調査区を設けて立木と倒木（調査区の半分）のバイオマス量を調べます。調査区



伐倒サンプル木の層分け作業

内に一メートル方形の小プロットを二十設け、下層植生バイオマス量を調べます。

① 立木バイオマス量調査では、毎木調査によりサンプル木八本を選んで伐倒し、三メートルの層に分け、層毎に幹と円板の生重を測り、円板を持ち帰って乾燥重を測ります。

二部位の円板については、容積と乾燥重から容積密度を計算します。大枝を生枝と枯れ枝に分け、それぞれ全生重を測ります。葉、枝、枯れ枝（葉）のサンプルの生重と、持ち帰って乾燥重を測ります。

② 倒木バイオマス量調査では、測定木から円板を皮付きで採取し、容積密度を計算します。

③ 下層植生バイオマス量調査では、草本類と胸高直径一センチメートル未満の木本を刈り取って生重を測ります。サンプルを持ち帰って乾燥重を測ります。

この調査には、現地作業は勿論、持ち帰ったサンプルの乾燥と計測、記録等の室内作業にも多くの労力と時間が掛かります。こうして各県が収集したデータは森林総合研究所に集められ、二酸化炭素吸収量の算定方法の開発の基礎となります。

〔森林研究研修センター〕

「企業の森づくり事業」創設される

県民各層の協働による森林整備の促進

▼はじめに

近年、地球温暖化防止など環境問題への関心が高まり、森林の持つ水資源のかん養や県土の保全、さらに、保健・文化・教育的な利用など県民の森林に対する期待は多様化しています。

一方、県では、平成十一年度から実施している森林オーナー制度、森林ボランティアによる森づくりへの支援、学びの森づくり事業や水源の森づくり事業の実施などを通して、県民参加の森林づくり運動を推進してきました。また、山形県では、県民全てに恩恵を与える森林を、県民全体で支える「公益の森」と位置づけ、県民各層の協働による森林整備を促進する「やまがた公益の森構想」を今年度に策定することとしています。

▼事業の目的

この事業は、県が平成十三年度に策定した「山形県森林整備長期計画」に示した施策の推進方向の中で、県民参加の森林づくりの推進に位置づ

けられ、県民各層の協働による森林整備の一手法として今年度から創設された事業です。

▼事業の内容

県内に本店及び支店（営業所、出張所を含む）を置く企業を対象に、植樹や育樹など森林の整備、保全活動を実施する機会を提供するもので、補助の対象となるものは次のとおりです。

- 実行委員会等の運営費
- 企業や参加者を募るための募集・広報費
- 地拵え、歩道・作業道の整備等を行う条件整備費
- バス借り上げ、指導者謝金、作業器具購入、苗木代、看板設置等の活動支援費
- 整備・保全活動後の補完・補整費

▼企業の参画の形態（図1参照）

- ① 森林の利用者としての参画（森林オーナー）
- ② 森林整備の担い手としての参画
- ③ 森林整備の資金提供者としての参画（森林整備のパートナー）

事業実施主体は、市町村、民間非営利団体（山形県林業公社、山形県みどり推進機構、地方公共団体等が

▼事業実施主体

この事業は、昨年六月の第五十三回全国植樹祭の開催及びその関連キャンペーンの実施により活発化してきた、県民参加の森林づくり運動をさらに発展させ、県民各層の協働による森林整備が促進される事を目指しています。

▼おわりに

今後とも積極的に事業のPRを行い、多くの企業に参加していただきたいと思います。また、事業の実施には、フィールドとなる森林の提供が必要となりますので、県民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

○企業が森林整備の担い手として参画した場合

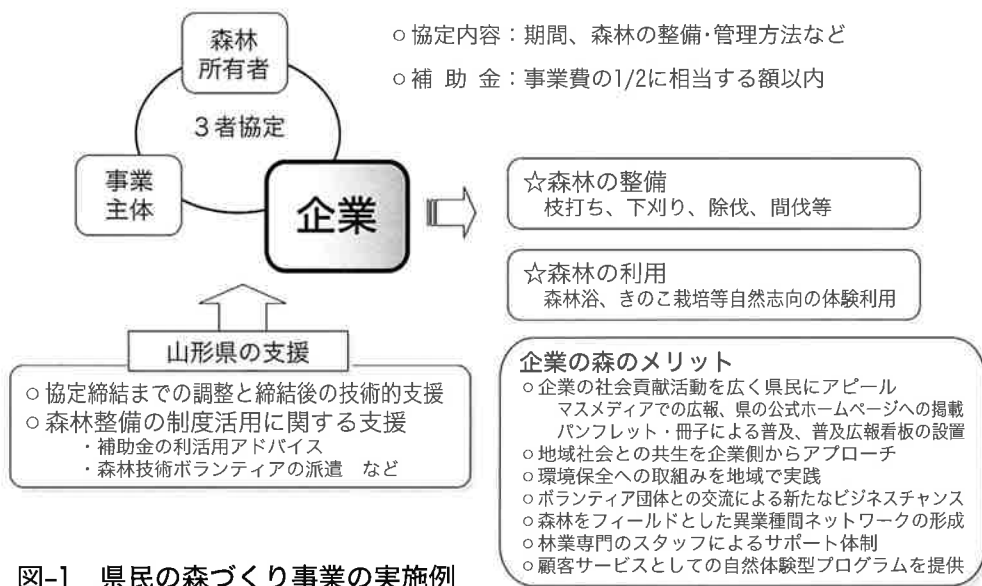


図-1 県民の森づくり事業の実施例

今後とも積極的に事業のPRを行い、多くの企業に参加していただきたいと思います。また、事業の実施には、フィールドとなる森林の提供が必要となりますので、県民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

〔県森林課〕

ぐんぐん育て しいたけ木の実

山形県立山形養護学校
緑の少年団担当 瀬野 弥子

わたしたち山形養護学校の緑の少年団は、毎年しいたけを育てています。

市の森林整備課の方々が準備してくださるほど木に、子ども達は一生懸命しいたけのコマを打ち付けます。ある子は一人で、ある子は教師と一緒に木槌を持って、とんとんとん。一人でできる子は、友達が作業し

終えたほど木をどんどん片付けてくれました。

体の調子がよくない子には、教師が訪問するときに持って行って家庭でコマを打ってきます。

学校の「希望の森」の中でしいたけが育つと、みんなで収穫して調理したり、家へのお土産にしたりして、とても喜ばれています。



「こうやるんだよ」「ふんぶん なるほど」



一人で上手に、とんとんとん



先生といっしょに とんとんとん

入団式の日、あいにくの寒空で、残念ながら子ども達でブルーベリーの苗を植えることができませんでしたが、昨年みんなで植えたものも今年植えたものも大切に育てたので、たくさんの実がなりました。とてもおいしかったです。

また、今年は、学校の創立三十周年で、記念にブラックベリーとラズベリーを植えました。みんな小さなシャベルで土をかけたり、水をかけたりしました。こちらも、ぐんぐん育て実を付けてくれるのを楽しみにしています。



植樹完了 おつかれさま



大きくなれ ブラックベリー、ラズベリー

「森林」と「家づくり産業」現場見学会

「森」と「木」と「住宅」を循環させる

「森」と「木」と「住宅」を循環させることで、「森林の保護」や「木材需要の増加」や「健康的な住環境」の推進を図ることを目的に、最上総合支庁独自の事業として「最上の木の家」推進事業がスタートしました。

第一弾として、八月十二日に「産地直販システム」で家づくりに取り



安全ヘルメットをつけて“うまいもんだね”

組んでいる鶴岡市三瀬の林業家加藤周一氏を訪問し先進地調査を実施しました。

参加者は、家づくりネットワーク会員はじめ一般の参加希望者を含め二十名でしたが、家づくりを進める上で大いに勉強になったところです。

第二弾として、今回の現地ルポで取り上げることになった「森林」と「家づくり産業」現場見学

会バスツアーを八月二十二日に実施しました。参加者は、家づくりネットワーク会員はじめ一般参加の家族づれの女性、小学生を含め二十一名となりました。

最初に、真室川町内の杉六十五年生の伐採現場を訪れました。

実際に伐倒し玉切りするところを見せていただきましたが、チェーンソーの音とともに木が地響きをたてて倒れる様を見るのがほとんど初めてとあって、迫力のある様子に驚きとともに感嘆の声をあげていました。

現地ルポ

次に、伐採・玉切りされた丸太が運びこまれ、製材される製材所を訪れました。

製材所では、丸太が一連の製材工程により柱や板材になる様子を見せていただくとともに、これからの木材は、乾燥がいかに大切かをお聞きしました。

次に、このようにして製材された製品がどのようにして売られているのか製品市場「ガッテ」を訪れました。市場では、地元材をはじめ県外の素晴らしい製材品を見せていただき、家を建てるならこんな木で建ててみたいねと言う声が、あちこちで聞かれました。

次に、地域材を活用して平成十三年に補助事業で建てられた真室川町の産直施設「まごころ工房」を見学しました。

その後、木材の良さを活かした金山町のシェーネスハイム金山（ホテル）のレストランで昼食をとり、昼食後隣の遊学の森森林交流館「木もれび館」を訪れ、パネル展示等による全国植樹祭の様子などを見学することが出来ました。

次に、骨組みだけが完成した「金山杉の家」を見せていただき、帰りに金山町にある樹齢二百四十年と推



製材ってこんな流れなのか!!

定される杉の人工林「大美輪の大杉」、新庄市萩野にある巨木「石動神社の大杉」を訪れました。

この見学会を通して、森林の大切さ、良さを認識するとともに、一軒の木造住宅が出来るまでに色んな過程を経ることができる事を知るとともに風雪に耐えながら永く生きてきた巨木を見ることにより、参加者達は色んな思いを描いているようでした。

今後このようなイベントを重ねて「森林」や「木」に対する理解者を増やして行きたいと思えます。

〔最上総合支庁森林整備課〕

みんなが森林の応援団

森林と水

私たちは、生活用水、農業用水、工業用水として大量の水を使っています。もちろん地球上に生きているすべての生物が水を使っているわけですが、なかでも人間は「水の巨大消費者である」と言えます。

地球上にある水は、太陽エネルギーによって液体、水蒸気等の気体、水や雪等の固体に姿を変えて循環しており、このうち私たちが使っている水のほとんどは地上に降る雨や雪という形で受け取っています。

森林の樹木や土壌は、降った雨を受け止めて地下へ誘導し、地上を急激に流れ下ることを防いでいることから、「水の循環」を左右する大切な役割を担っています。

ダムと森林

人間は、水を使うためにダムを造っています。ダムは山間部の地形を利用して建設されることが多く、周りにはたくさん森林が存在します。前述したとおり森林は、降雨等を地下に誘導しゆっくりと流すはたら

きがありますので、ダム周辺の森林は貯水湖への土砂の流入や異常気象等による渇水時の貯水量不足を防ぐなど、ダムを守るはたらきをしていることとなります。

森林と人

日本人は、昔から森林を造成し、育成し、活用することで適正に管理してきました。これは結果的に水の循環を助けることとなります。

私たちは、「水の消費者」であるとともに「水の守り手」になることができるのです。

しかしながら、ダム機能を補完すべき森林は、人里から遠いなど地理条件の不利や木材価格の低迷等いろいろな理由により放置され荒廃することがあり、従前の森林所有者に頼った整備だけでは限界にきています。一方では、一般市民の環境に対する関心が向上し、「自らの手で森林を守りたい」という意識が確実に広がりを見せています。森林を持たない個人がボランティアとして植栽や保育作業に参加するケースや学校、地

域、企業といった林業とは無関係の団体が森づくりに取り組んだケースなどさまざまですが、林業経営とは異なる整備形態が根付きつつあるようです。

水源の森を守るために・・・

ダムを管理する県企業局と民有林を所管する県農林水産部では、平成十二年からダム周辺の森林整備を行う場合の事業費の一部を助成することで適正な整備を奨励しています。

過去三カ年でブナやトチノキなどの植栽から下刈、除間伐の保育作業まで併せて千八百九十一畝の森林を整備しました。

また、水源林を守るボランティア活動については、今年実施した活動例を紹介します。

山形県林業公社が、「水源の森づくり活動」としてダム上流にある植林地の下草刈り作業体験希望者を募集したところ、県内から九十一名の参加がありました。

七月五日（土）当日は、晴天に恵まれ作業には好条件。刈払機や下刈カマの使い方をひととおり学んだ参加者たちは、さつそうとカマを担いで植栽地へ入りました。植栽地は南向きの日当たりのいい斜面、四年前に植栽したスギは一・五メートルくらいに

成長していますが、草はそれ以上に伸びており、スギを見つけたにもひと苦労するほどです。たちまち参加者の額には、大粒の汗が噴出してきました。



「暑くてたいへんでした」
下刈作業を終えたボランティアの皆さん

「夏の暑い盛りに下草刈りの作業をするのはすぐくたいへんですね。

でも、これをしないと植えた木が大きくならないことが実際に体験してよく解りました。」とは参加者の言葉。森林造成には、人の手が必要なところが一般的にはまだ知られていないようです。

まとめ

水源地の森づくり、森林の手入れに携わる仕事など、私たちの目に見えないところで活躍する人々を応援しましょう。

〔県森林課〕

平成十四年度森林資源現況調査結果について

着実に増加している民有林資源

林野庁では、「全国森林計画」樹立の前年に、我が国の森林資源の状況を把握するため「森林資源現況調査」を実施しており、このたび、平成十四年度調査結果が公表されました。

森林面積は、前回調査（平成七年）の二千五百十五万haからほぼ横這いの二千五百十二万haであり、国土面積三千七百七十八万haの66%となっています。

森林蓄積は、前回調査の三十四億八千三百万m³から五億五千七百万m³増加し、四十億四千万m³となり、初めて四十億m³を突破しました。毎年約八千万m³ずつ蓄積増加しており、これは、平成十三年の全国の木材需要量九千二百九十四万m³（丸太換算）の86%になります。

それでは、山形県民有林の資源量はどの様に推移しているでしょうか。民有林（森林計画対象森林）の森林面積は、三十一万二千三百五十二haで前回調査から約千ha増加しています。調査を始めた昭和四十一年から三十七年間で約三千五百ha増加し、

ほぼ横這いの状況です。

森林蓄積は、四千八百七十六万七千m³で前回調査から約七百七十万m³増加しました。毎年約百万m³ずつ蓄積増加しており、これは平成十三年の本県の素材需要量五十四万二千m³の二倍を超えています。

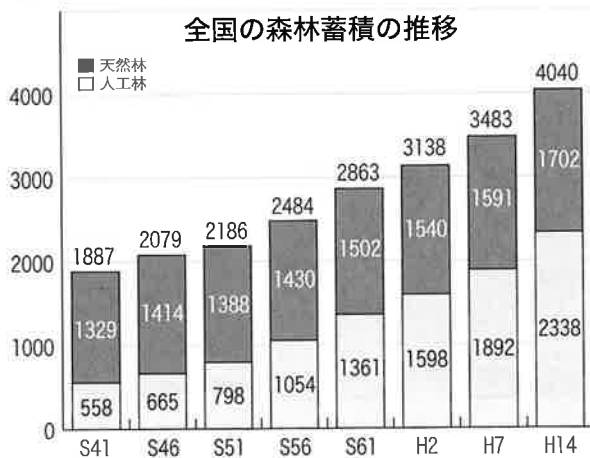
このように、本県の民有林資源は年々豊かになっており、木材、バイオマスエネルギーの供給源として有効に活用していくには、保育・間伐等の実施により人工林資源の質的充実が必要となります。

今後は、林道・作業道路網の延長による作業効率の向上、搬出コストの縮減が不可欠であり、地域の森林資源を中心とした循環型社会を構築していくため、県民、林業・木材産業関係者、行政等の連携・協働が求められています。

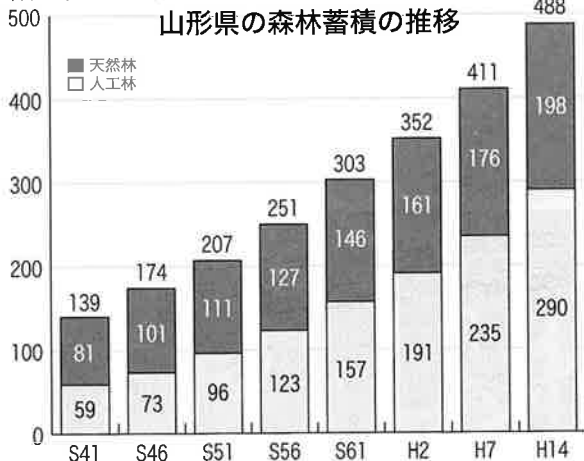
〔県森林課〕



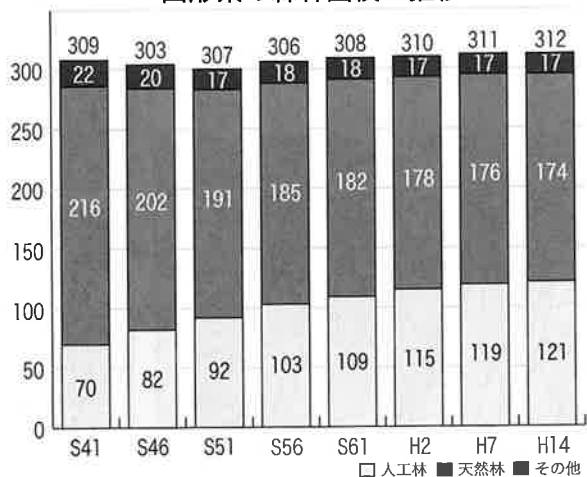
(百万m³)



(十万m³)



(千ha)





角沢八幡神社にある杉は、目通り六メートル四十センチメートルもあり、この地方では県指定天然記念物石動神社の親杉に次ぐ巨木です。この神社は、明治戊辰戦争の激戦地として知られています。庄内軍はこの角沢口から新庄城下へ突入して新庄城を落としました。昭和五十四年十月二十四日に市指定天然記念物に指定。

〔山形県森林協会〕



(案内略図)

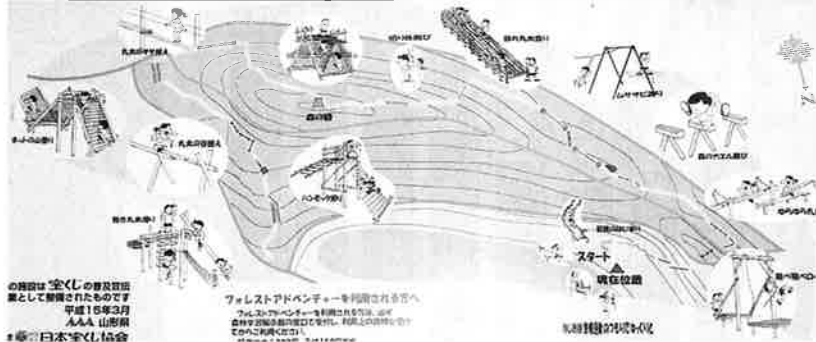


公共木造施設 ⑩
**フォレスト
 アドベンチャー**
 山辺町大字大沼

(「県民の森」に施設されたスギ丸太を活用した木製遊具)

完成年度 平成14年度

県民の森 フォレストアドベンチャー 案内図



崩れた丸太登り



切り株跳び



森の岩



森のカエル跳び



ハンモック滑り



ネットの山登り

各種公益事業ほかみどりの推進のため、各種環境調査や公園緑地等の設計、良質適性樹木の供給等に
技術士、樹木医、一級建築士、測量士、各種施工管理技師等の専門スタッフで総合的に応えています。

一級建築事務所、測量事務所のほか県内唯一の国土交通省建設コンサルタント事務所(造園部門)

財団法人 **山形県みどり推進機構**

理事長 本間正己

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
TEL (023) 688-6633 FAX (023) 688-6634

緑のアドバイザー



財団法人 林野弘済会



秋田支部 山形出張所長 渡辺省三 〒990-0045 山形市桜町2-35 (林業会館4F)
TEL・FAX 023(641)1024
秋田支部 支部長 石岡保 〒010-0001 秋田市中通5-9-16
TEL 018(832)4040 FAX 018(835)6837

ISO 9001



お気軽にご用命ください

- ☆土壌汚染・地下水汚染調査及び修復業務
- ☆保安林解除・林地開発許可申請書作成業務
- ☆治山GIS、地すべりGIS及び都市GIS業務
- ☆山岳トイレの設計施工

土と水と緑の技術で社会に貢献する



国土防災技術株式会社
山形支店

〒990-0023 山形市松波1-16-9(カネマルビル)
TEL(023)622-3979・FAX(023)631-7294

建設コンサルタント/建設業/地質調査業/測量業

環境を守ろう

災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)
電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454



国民の森林・国有林

東北の四季との共生

信頼の年輪 国有林材

東北森林管理局

〒010-8550 秋田市中通五丁目9-16

山形県林業機械化協会

林業機械化の先端情報をすばやく提供

会長 奥山 幸作 (株ヤンマー農機山形 村山支店)

会員社名	(所在地)	会員社名	(所在地)
(株)ヤンマー農機山形村山支店	(村山市大字箭山)	新興商事	(鶴岡市稲生)
(株)村上キカイ	(酒田市両羽町)	(有)東栄重車輜	(天童市大字清池字金石段)
(株)村山商工	(米沢市松が岬)	コマツ山形(株)	(山形市蔵王成沢字町浦)
東北建設機械販売(株)山形支店	(天童市高掬字金石段南)	エレクトラックスジャパン(株)	(盛岡市津志田)
(有)林和機工	(山形市馬見ヶ崎)	東北ヤンマー(株)東日本営業所	(仙台市宮城野区福田町南)
山形県森林組合連合会	(山形市蔵王成沢字町浦)	(株)筑水キャニコム仙台センター	(仙台市太白区茂庭字人來田西)
東北共立エコ(株)山形営業所	(東根市大字郡山字ノギ八)	(株)南星仙台営業所	(仙台市太白区砂押南町)
イワフジ工業(株)営業本部東北支店	(水沢市桜屋敷西)	(株)山工社	(山形市宮町)

山形県林業機械化協会事務局 山形市桜町2-35(林業会館内) TEL 023-633-1536 FAX 023-624-0804

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタンツ

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800

FAX (023)647-1801

印刷所

渡辺活版所

定価

一部二〇円

森林やまがた10月号 平成15年10月1日発行 通巻第79号

監修 山形県

編集・発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/10/100520.html>

古紙配合率100%再生紙を使用しています